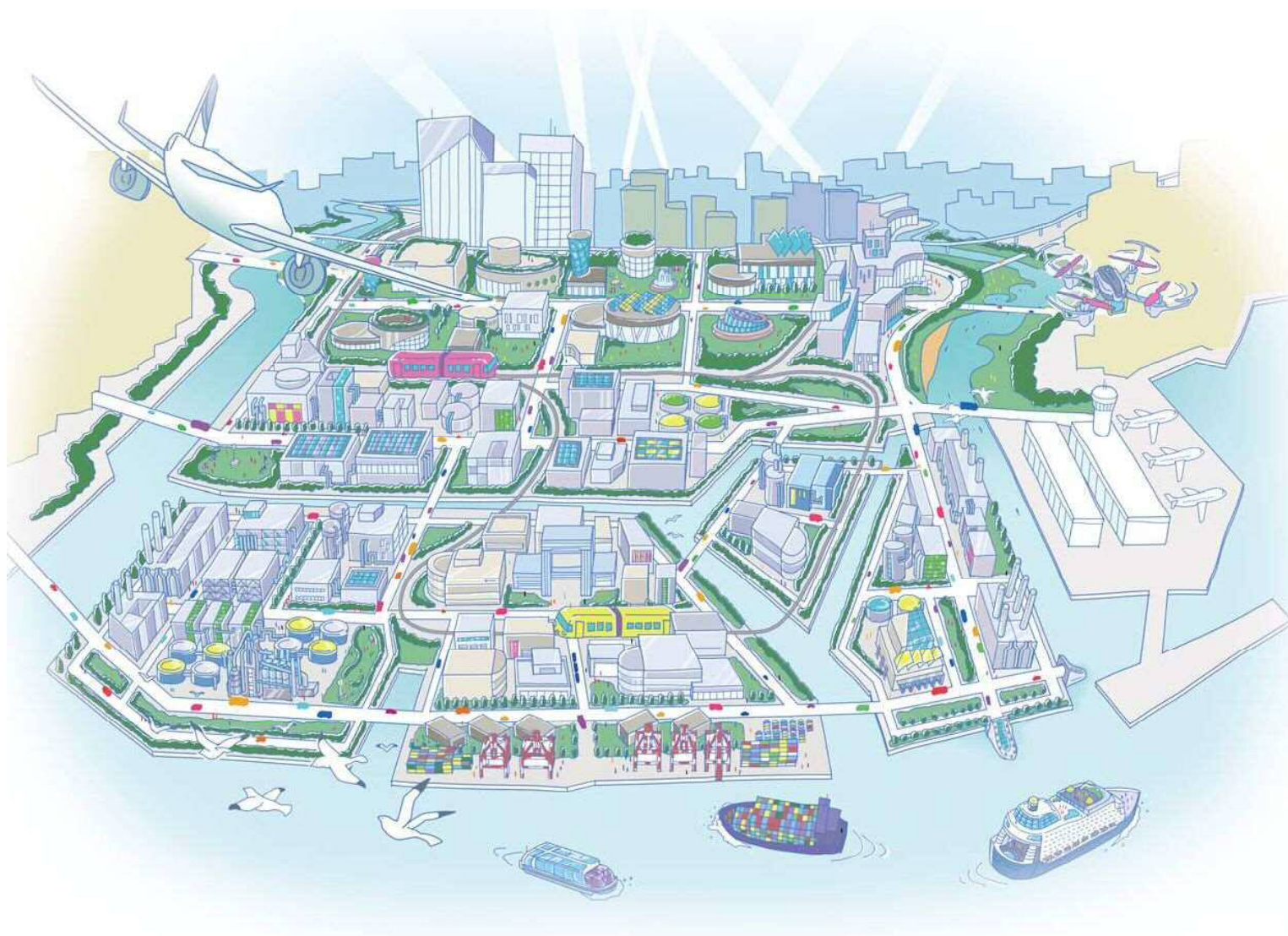


臨海部ビジョン

～川崎臨海部の目指す将来像～



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

1 30年後の川崎臨海部の目指す将来イメージ



新しいアイデアを形にできます

この地域では、世界中から新しいアイデアを持つ人が集まり、最先端の研究開発と社会実装が行われて、アイデアを形にし、新しい価値を次々に生み出すことができます。そして、その価値が周辺地域にも波及しています。



日本最大の付加価値を生み出しています

この地域を支えてきたコンビナートの新陳代謝により、基幹産業が高機能化しながら環境調和・スマート化を実現し、日本で最も付加価値を生み出しています。

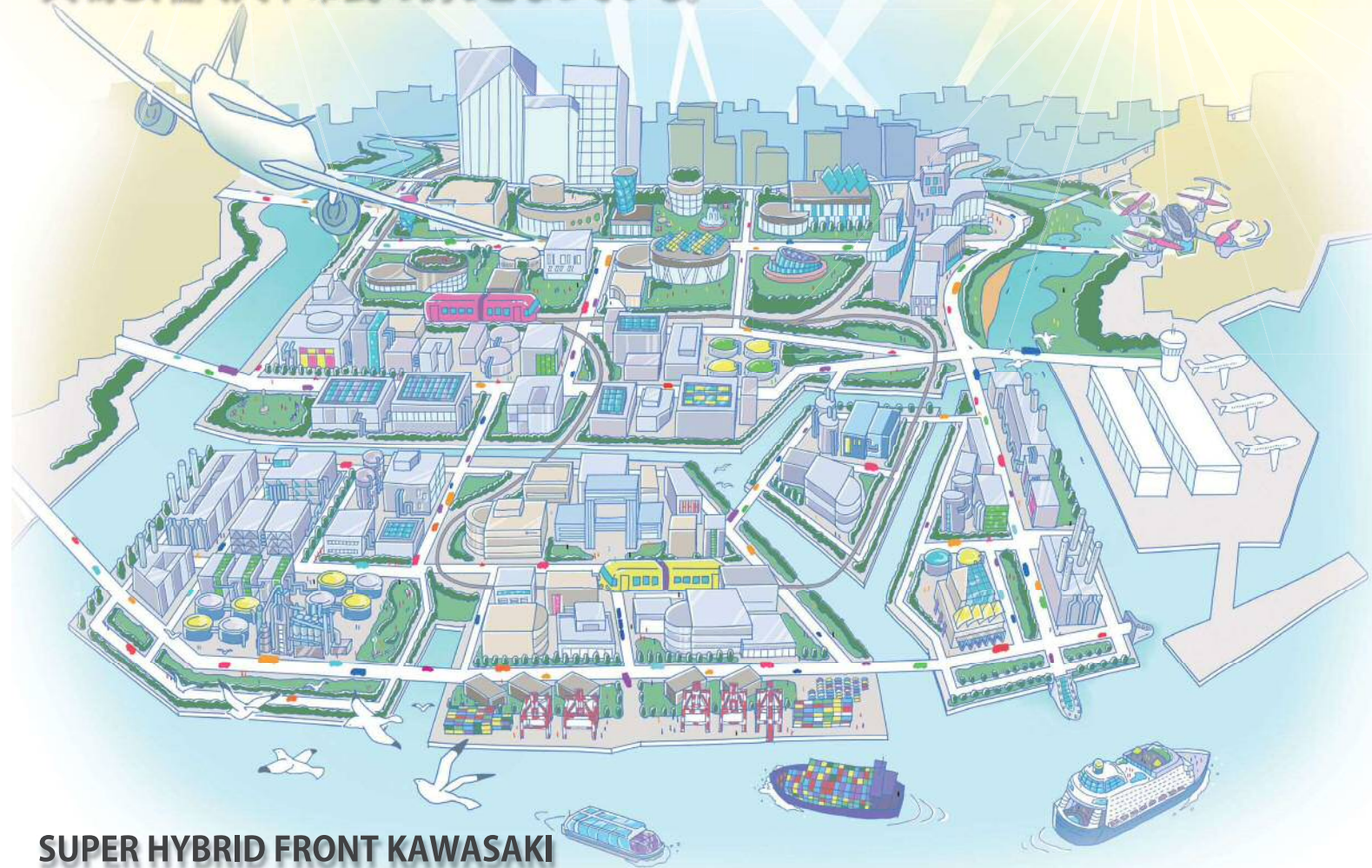


ゼロエミッション化しています

産業と環境が高度に調和し、新たな原料や素材の開発、クリーンエネルギーの普及・活用が進み、国際社会に貢献しながら地域全体で低炭素化・ゼロエミッション化が実現しています。

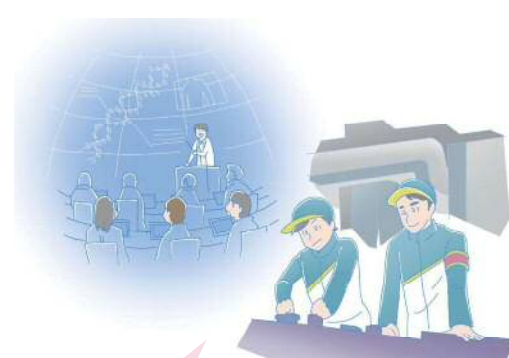
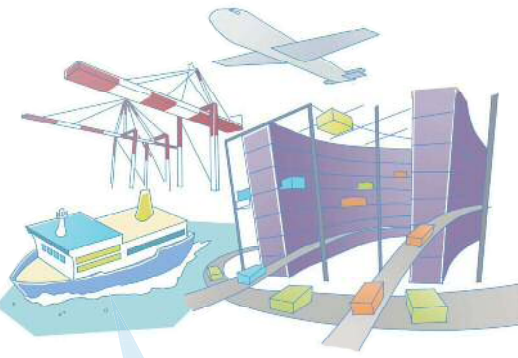
成熟社会における**豊かさを実現する産業**が躍動し、革新的な技術、製品、サービスが生まれる知性と創造性のあふれる地域として、新しい価値を生み出し続けている。

「働く・暮らす・学ぶ」が一体となった受容性に富む地域として、**多様な人材や文化が共鳴し**、働く人や市民の誇りとなっている。



SUPER HYBRID FRONT KAWASAKI

※川崎臨海部の30年後の目指す将来イメージを鳥瞰図として表したものです



人、モノ、情報が行き交う拠点になっています

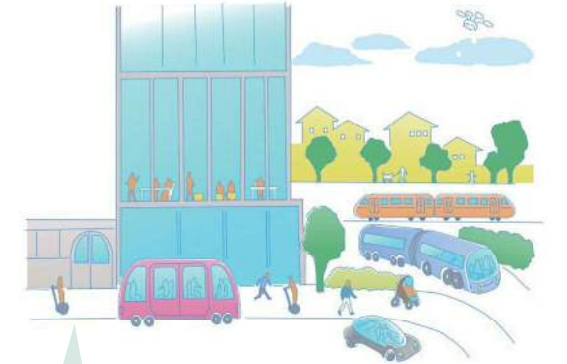
陸送、海運、空輸といった様々なニーズに対応した物流の高機能化を図るなど、国内外の重要な結節点としての役割を強化することにより、人、モノ、情報が行き交う日本を代表する拠点となっています。

最も自分が磨ける地域になっています

先端的な研究開発人材や日本を支える技能人材が学び交流できる仕組みが整うなど、この地域では基礎から応用まで学ぶことができるだけでなく、ここに来ただけで刺激が得られる、最も自分が磨き輝ける場所になっています。

楽しく働ける地域になっています

この地域に立地する企業、研究所はとても働きやすい就業環境が整っており、また、職場の近くで快適に飲食、交流ができ余暇を過ごすなど、楽しく働くことができる地域になっています。また、働く場と暮らす場が近くにあり、多様なワークライフバランスが実現しています。



交通が快適になっています

新たな交通軸の整備などが進み、臨海部に通う人、集う人が、快適に移動できる場所になっています。



災害時にも首都圏を守る要となっています

企業をはじめ臨海部に携わる関係者が協力し、強靱なライフラインと社会インフラ、協力体制を整えることにより、安心して働くことができ、また働く人や市民の命と生活を守る地域になっています。また、一大エネルギー拠点として、首都圏の生活を守る要となっています。



「カッコいい」「ワクワクする」臨海部になっています

臨海部の取組が広く知られ、また文化的で創造性あふれる地域として臨海部全体が変化していくことにより、これまでのイメージから「カッコいい」「ワクワクする」といったイメージに変わり、市民の誇りとなる新しい臨海部像が確立しています。

川崎臨海部のあゆみ

京浜臨海部の形成（1900～1950年代）

高度経済成長を牽引（1950～1970年代）

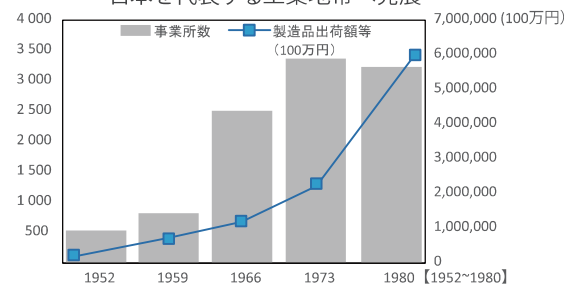
環境問題と解決に向けた取組（1960～1990年代）

産業の空洞化（1990年代）

臨海部の再生（1990～2000年代）

新たな拠点形成と新産業創出（2000年代～現在）

事業所数、製造品出荷額等が急速に伸びるなど
日本を代表する工業地帯へ発展



産業と環境が調和したエリアを目指し地域全体が転換



工場の跡地がライフサイエンス・環境の拠点になるなど
研究開発機関が集積



ビジョン策定の背景と目的

【グローバル（世界の）情勢】

- 経済のアジアシフトと人口増加、高齢化の進展
- 地球規模の温暖化対策とエネルギーバランスの変化
- AI、IoTなどの産業革命や技術革新
- EV普及を契機とする移動手段の変革

【ローカル（日本の）情勢】

- 生産年齢人口減少、首都圏への人口集中
- CO₂排出量の削減に向けた全国的取組
- リニア新幹線など移動時間の短縮化

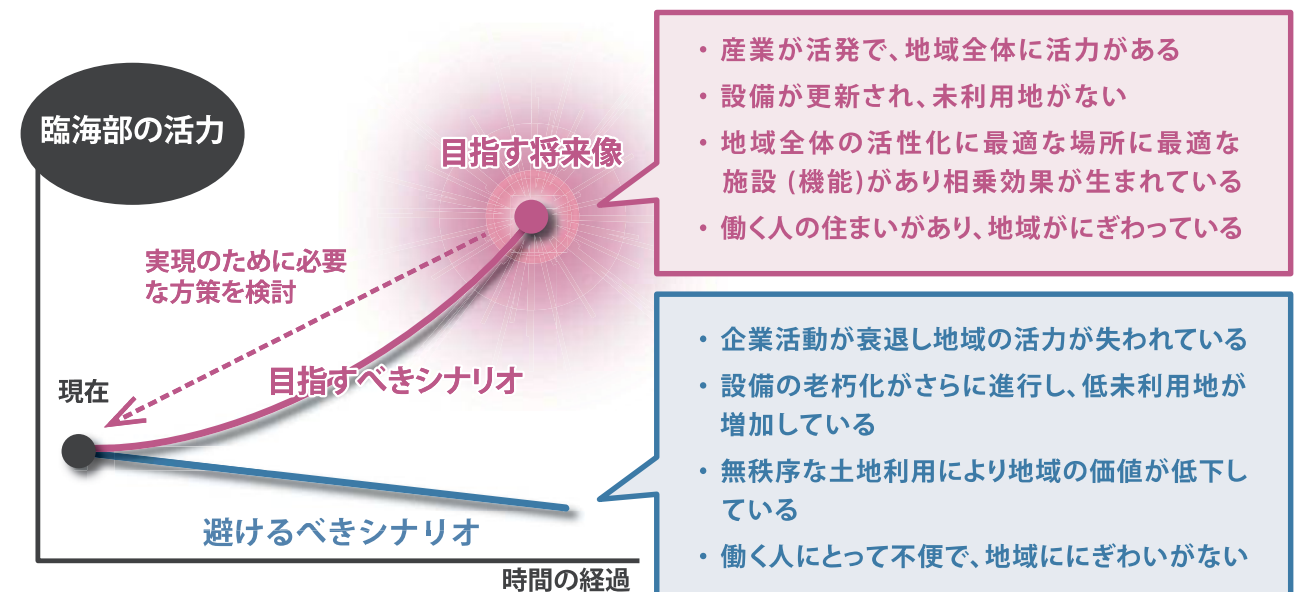
【川崎臨海部の現況】

- グローバル化に伴う製造機能の海外移転など、産業構造が大きく転換
- 高度成長期以来、生産を続けてきた設備の老朽化が進行
- ライフサイエンス分野の国際戦略拠点「キングスカイフロント」の形成や水素プロジェクトなどが進み、新たな成長産業の芽が生まれつつある
- 物流・ロジスティクスの進展に伴い、大型物流施設の立地が進むとともに、港湾機能が向上している

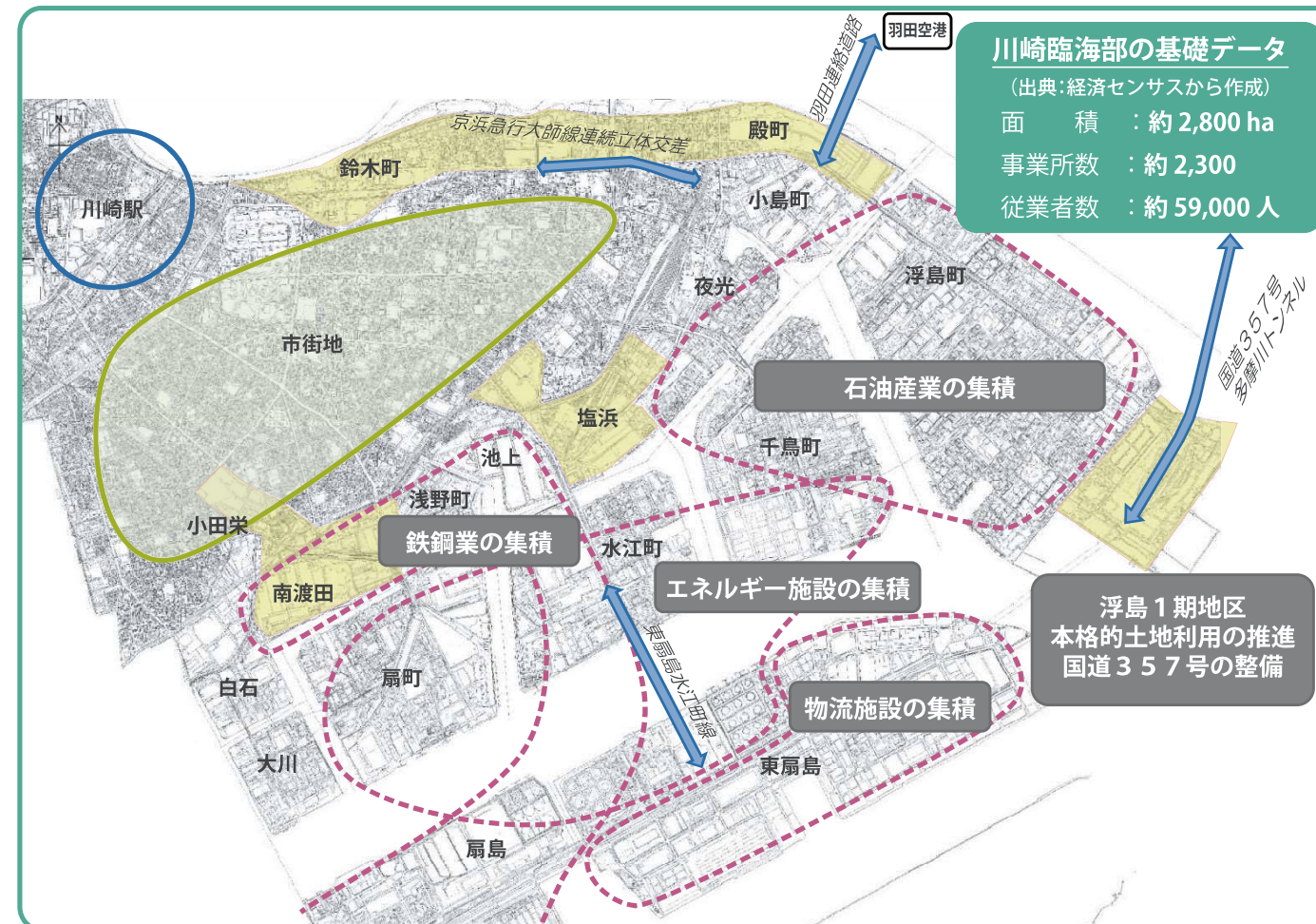
本市における「力強い産業都市づくり」の中心の役割を担う川崎臨海部について
これからの日本の成長を牽引する「産業と環境が高度に調和する地域」として、
持続的に発展させるため、30年後を見据えた臨海部の目指す将来像やその実現に
向けた戦略、取組の方向性を示す

ビジョン策定の手法

現在直面している個々の課題に対し解決策を検討し、全体を積み上げる方式
ではなく、30年後を見据えた臨海部の目指すべき将来像を設定・共有したうえで、
その実現策を検討する **バックキャスティング手法** により策定しました。



臨海部の現況

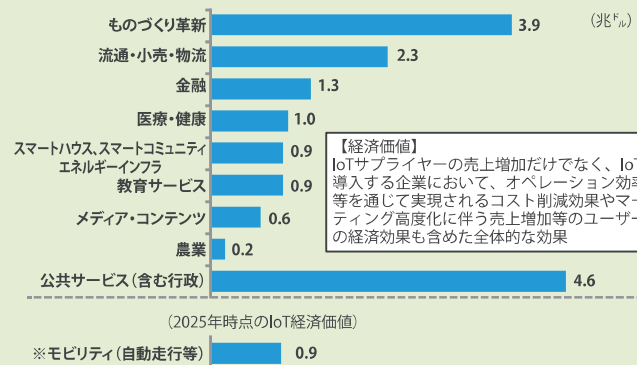


30年後に想定される(主に産業分野における)社会経済環境

- 第4次産業革命の進展により価値の源泉が「ヒト(人材)」・「データ」に移るSociety 5.0の経済システムが進展し、離れて「自立分散」する多様なもの同士を、新たな技術革新を通じてつなげ「統合」することが大きな付加価値を生んでいる。
- 世界中で予測困難なスピードと経路でイノベーションが進化する中、社会を巻き込んで試行錯誤しながら、失敗しても再び挑戦できるプロセスが有効となっている。
- 2050年までには、首都圏の3環状道路やリニア中央新幹線等、基幹的な交通インフラの整備が大きく進展することが見込まれ、国土・交通・暮らし方の利便性が飛躍的に向上する。
- ICTの進歩と共に、交通、物流、建設等、広い分野において自動化、機械化といった技術革新が進展する。また、医療、理学、工学、IT等の先端分野に加え、製造業や食品産業など様々な分野横断型・異分野融合型の研究開発によりイノベーションと成長が実現される。
- 特定の働く場所や勤労形態、年齢にとらわれず、若者から高齢者まで、様々な人の多様な仕事ぶりや生き方を、それぞれの立場や能力に応じて支え合う社会となっている。
- 地球温暖化の深刻化により、世界規模での環境対策が行われている。

IoT分野が進展している

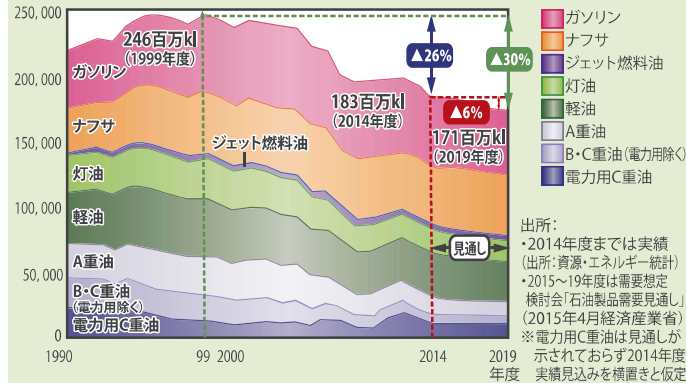
2013-2022でIoTが創出する経済価値の累計



(出典:経済産業省「新産業構造ビジョン」)

石油の国内需要が縮小している

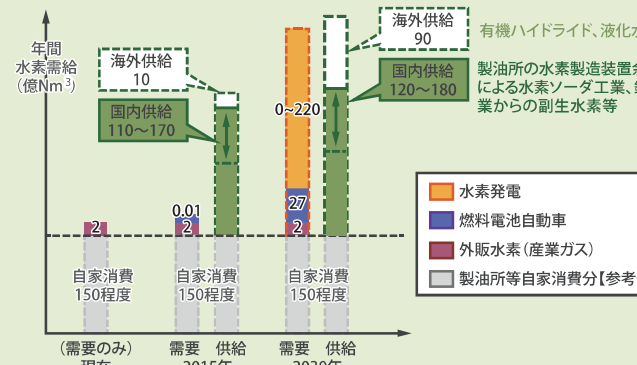
石油製品内需の推移と見通し



(出典:石油連盟「2016今日の石油産業」)

水素市場が拡大している

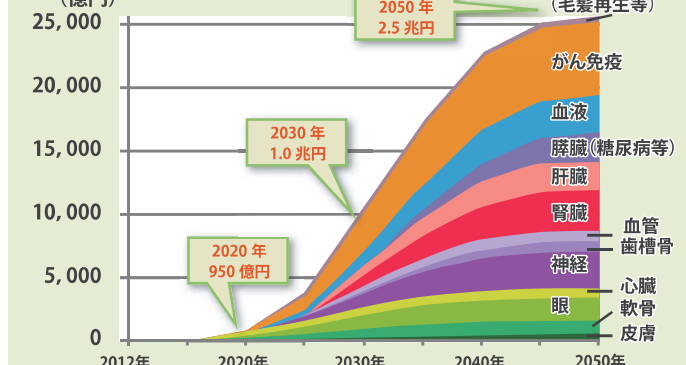
日本の水素・燃料電池関連市場の将来予測



(出典:独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(2015)「水素エネルギー白書」)

健康・医療分野の市場が拡大している

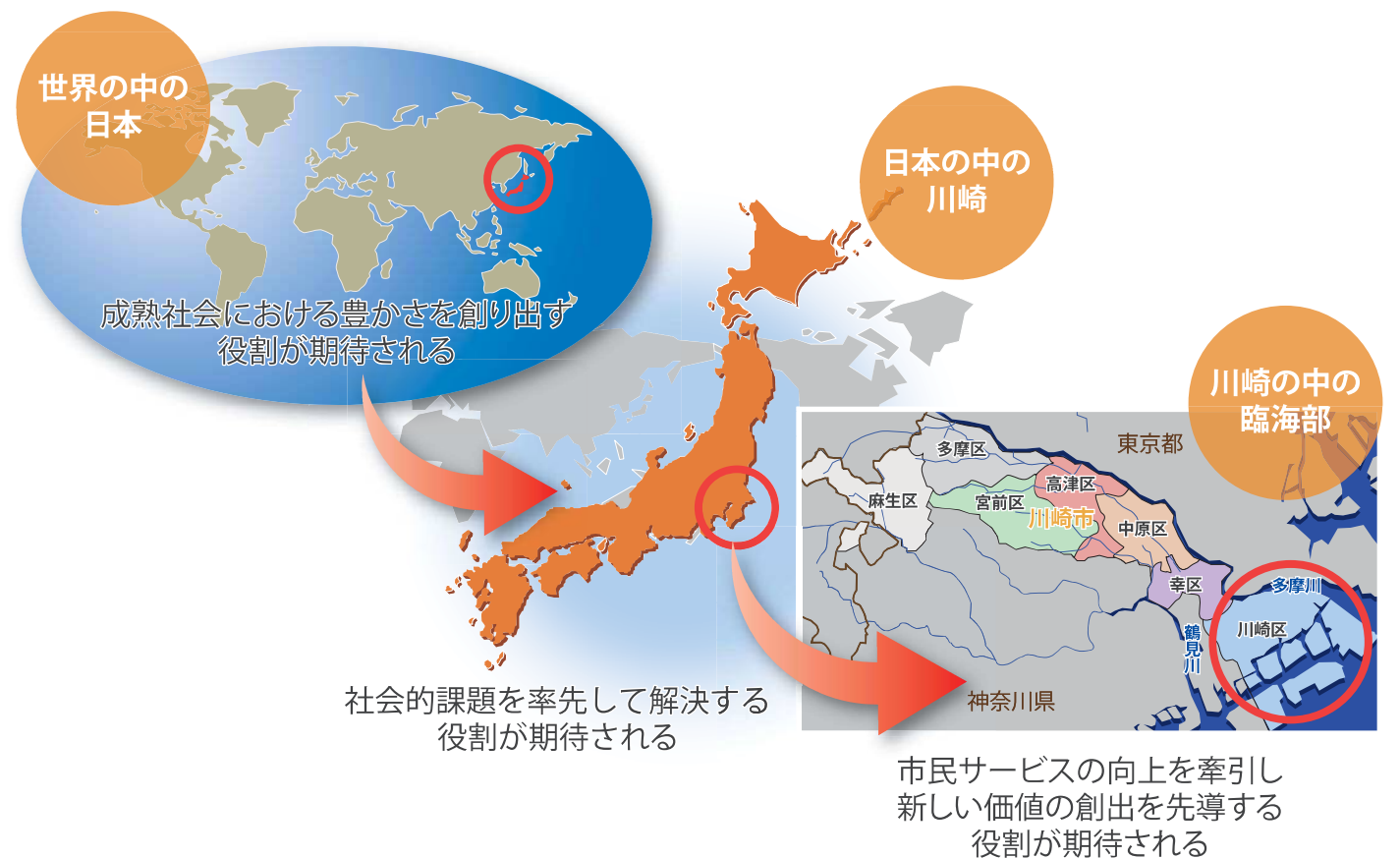
再生医療の将来市場予測(国内)



(出典:経済産業省(2013)「再生医療の実用化・産業化に関する報告書」)

川崎臨海部の役割

- ◆ 「力強い産業都市」の中心として、企業の売上や投資の増加、就業者の収入の増加により、地域の発展と雇用を生み、市民サービスの向上を牽引
- ◆ 東京、横浜など首都圏域に産業波及をもたらす
- ◆ 地域特性を活かし新しい技術の実装の場となることにより、地球規模の課題を解決する新しい価値の創出を先導



ビジョンを貫く基本理念

- 川崎臨海部は今後も産業(ものづくり)が高度に発展し続ける地域として、世界で最も付加価値を生み出すエリアであり続けるべきである
- 多様性と交流を重視した地域を目指すべきである
- 産業エリアとしてだけでなく、自然環境や暮らし、学びの機会が充足した地域を目指すべきである
- 羽田空港・京浜港や多摩川などの地域資源を最大限に活用するべきである
- 川崎臨海部が市民や就業者の誇りとなる地域を目指すべきである

30年後のエリアイメージ

臨海部の発展と川崎市域との連携

以下2点の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図、数値地図25000(地名・公共施設)及び基盤地図情報及び電子地形図(タイル)を使用した。(H27情使、第854-5号)



広域連携と周辺地域への波及



ビジョンの構成



30年後の将来像

川崎臨海部の30年後を見据えた目指す将来像

基本戦略

「30年後の将来像」の実現に向け、川崎臨海部が持つ可能性を最大限発揮しながら価値の最大化を図るために、今後取り組むべき方向性を分野ごとに示したもの

豊かさを實現する産業が躍動

①次代の柱となる新産業の創出

②コンビナートを形成する基幹産業の高機能化

③世界最高レベルの最適なエネルギー環境の構築

④暮らしと産業を支える港湾機能の強化

⑤世界に誇れる人材の育成・交流

⑥働きやすく暮らしやすい生活環境の向上

⑦市民が誇れる開かれた臨海部づくり

多様な人材や文化が共鳴

⑧強靱な地域を実現する災害対応力の強化

産業や生活を下支え

⑨臨海部の発展を支える交通機能の強化

リーディングプロジェクト

「30年後の将来像」を実現するための「基本戦略」に基づき、直近10年以内に先導的・モデル的に取り組むプロジェクト

リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトは、30年後の将来像を実現するために、基本戦略に基づき、直近10年以内に取り組むプロジェクトです。

ここでは、2018年度から取り組むプロジェクトの概要を紹介します。

リーディングプロジェクトは、社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、最も効果的な取組を推進し、ビジョンの実現を目指します。

①新産業拠点形成プロジェクト

②資産活用・投資促進プロジェクト

③水素エネルギー利用推進プロジェクト

④低炭素型インダストリーエリア構築プロジェクト

⑤港湾物流機能強化プロジェクト

⑥臨海空間を活かした地域活性化プロジェクト

⑦世界に誇れる人材育成プロジェクト

⑧働きたい環境づくりプロジェクト

⑨緑地創出プロジェクト

⑩職住近接促進プロジェクト

⑪企業活動見える化プロジェクト

⑫災害対応力向上プロジェクト

⑬交通機能強化プロジェクト

①新産業拠点形成プロジェクト

拠点間の相乗効果を生み出しながら第1層を研究開発拠点に

ライフサイエンス分野の研究開発機能が集積

拠点同士の連携

AIやIoTなど Society5.0を先導

南渡田地区における、AIやIoT等をはじめとする研究開発及び社会実装を行う新産業創出の拠点化

②資産活用・投資促進プロジェクト

- 臨海部第2層は、設備の老朽化が進行
- 一部で低未利用な土地や設備が発生
- 設備の老朽化を解消
- 新たな設備投資を促進
- 土地の最適利用を促進
- 資産の有効活用を促進

設備の老朽化解消や資産の有効活用、新たな設備投資促進等を通じ、企業の産業競争力強化を推進

③水素エネルギー利用推進プロジェクト

〈川崎臨海部〉

国内再エネ水素、海外再エネ水素、再エネ水素（BCP）、再生水素、水素発電、水素ステーション、MCH、石油精製、石油化学、物流施設、鉄道路線、オンライン供給、多摩川、〈東京エリア〉

水素を活用したクリーンなエネルギーが利用できる地域の形成

④低炭素型インダストリーエリア構築プロジェクト

低炭素製品製造、CO₂↓、工場排熱利用、太陽光発電、海外技術移転、緑化、バイオマス発電、風力発電

各事業所での環境対策を着実に行うとともに、AIやIoT等の新たな技術の積極的導入や社会実装を進め、臨海部の産業集積を活かして環境課題を解決していくモデル地域を形成

⑤港湾物流機能強化プロジェクト

物流拠点の高機能・高度化、千鳥町再整備計画の推進、土地利用の推進、掘込部土地造成、コンテナ航路の拡大国内他港との連携による内航船強化、コンテナターミナル機能強化・拡充、臨港道路東扇島水江町線の整備

首都圏を支える物流機能の強化

⑥臨海空間を活かした地域活性化プロジェクト

臨海空間を活かしたイベントの開催

親水空間や緑地などの臨海空間を活かした様々なイベントや新たな賑わいを創出することによる地域活性化

⑦世界に誇れる人材育成プロジェクト

多様な人材を育成する講座や実践的教育

我が国を支える研究開発人材、技能人材を育てる仕組みを構築

⑧働きたい環境づくりプロジェクト

組織を越えて飲食・休憩・交流する場所

多様な人材が集積し、交流する場や働きやすい環境づくりを図るなど、働く人が魅力と誇りを感じる地域の形成

⑨緑地創出プロジェクト

工場敷地内の緑地、市民が親しみ憩える良質な共通緑地、親水空間

市民が親しみ憩える、生物多様性に配慮した良質な緑地や親水空間を創出

⑩職住近接促進プロジェクト

多様な働き手に対応した暮らしの場、働く場

川崎駅から臨海部の間に、臨海部で働く人材の継続的な雇用の確保につながる生活環境を整備し、職住近接を実現

⑪企業活動見える化プロジェクト

市内学校による研究現場の見学会

臨海部の認知度・理解度向上、イメージ向上による誇りの醸成

⑫災害対応力向上プロジェクト

情報の発信・活用、ICTを活用した情報共有プラットフォーム、相互に連携、川崎市BCP、A社BCP、B社BCP、D業界BCP、C団体BCP、補完し合いながら地域内のBCPが達成

防災・減災、早期復旧の各フェーズにおける対応策を実践し、強靱な地域を創出

⑬交通機能強化プロジェクト

川崎駅、バスネットワークの最適化、新たな基幹的交通軸、バスネットワークイメージ（基幹ネットワーク）、交通結節点（既存）、交通結節点（新規）、川崎臨海部第1層

臨海部の持続的な発展を支え価値を向上させる交通機能の強化

ビジョン策定にあたって

川崎臨海部は約100年前に、起業家の元祖とも言える浅野総一郎が埋立事業や企業誘致を行い、戦後の高度経済成長期に飛躍的に発展を遂げ、日本経済を支えてきました。その後、環境問題やグローバル化に伴う産業空洞化を経験する過程で、企業を中心に地域全体が新陳代謝を繰り返し、高度な研究開発機能や物流施設の集積が進んできました。現在では、基幹産業の競争力強化に向けた取組やコンビナートとしての強みを活かした企業間連携が生まれるとともに、殿町国際戦略拠点キングスカイフロントの形成や水素を利活用した取組が展開するなど、新たな産業創出に向けた動きも加速しています。

これからの激動の世の中においても、川崎臨海部が発展し続け、本市の「力強い産業都市づくり」の中心として市民サービスや雇用を支えるだけでなく、産業拠点として世界の模範となるような地域を目指して、今回、企業をはじめとする様々な関係者のみなさまとともに30年後を見据えた臨海部のビジョンを策定しました。

臨海部ビジョンでは、川崎臨海部が目指す30年後の将来像として、新たな時代に求められる「豊かさを実現する産業が躍動」し、川崎臨海部の風土を活かした「多様な人材や文化が共鳴」する地域を掲げました。しかし、ビジョンを掲げただけでは魅力的な地域は実現しません。理想を現実のものにするためには、臨海部に関わる全ての人々がビジョンを共有し、実現に向けて協力し合い、それぞれの役割のもとに全力で取り組むことが不可欠です。

30年後も輝き続ける川崎臨海部の実現に向けて、共に取り組んでいきましょう。

川崎市長 福田紀彦



臨海部国際戦略本部 臨海部事業推進部

電話：044-200-0524

メール：59jigyo@city.kawasaki.jp

(2018年3月発行)